

4……達成した

3……おおむね達成

2……もう少し

1……できなかった

学校評価・評価基準データ					
具体的方策	評価基準	評価指標及び評価基準	評価	評価理由	展望
1 自ら考え表現し、ともに学び合う国語科の授業づくりに取り組む	4 3 2 1	自分の読みや考えに理由をつけて話しことができる児童の割合 80%以上 自分の読みや考えに理由をつけて話しことができる児童の割合 70%以上 自分の読みや考えに理由をつけて話しことができる児童の割合 60%以上 自分の読みや考えに理由をつけて話しことができる児童の割合 50%以下	2	第5学年対象の「基礎・基本、定着状況調査の児童質問紙調査(ことばの教育)」において「なぜ、そう考えるのか、理由をつけて話しています。」が県通過率54.6に対し67.8と上回ったが、本校作成の児童質問紙調査において「国語の時間、自分の考えに理由をつけて話しています。」と答えた児童は64.3%だった。	今後も本校の研究の視点である言語技術の効果的な活用のための指導方法や教材の開発に取り組む。国語の授業においては、自分の考えに理由をつけて話すことができるよう、文中に根拠を探す活動や友だちの考えにコメントを入れる活動に取り組む。
2 国語科の授業においてきめ細かな指導をしっかり行い、達成度60%未満の児童を減らす	4 3 2 1	CRT学力検査 4観点評価 1の児童の割合が 10%以下 CRT学力検査 4観点評価 1の児童の割合が 10%～15% CRT学力検査 4観点評価 1の児童の割合が 15%～20% CRT学力検査 4観点評価 1の児童の割合が 20%以上	3	本校作成の児童質問紙調査において「多くの文章を音読・暗誦したり、多くの漢字を練習したりすることができたと感じている児童の割合84.2%だったが、教職員アンケートでは、70%以上達成と答えた割合が60%であったので。教職員アンケートにおいて、「児童のつまづきを把握してきめ細かい指導を行い、達成度60%未満の児童が減った。」の項目では90%の教師が達成度60%～70%と答えている。考えを交流する授業の中で話し合いに参加したくてもできない児童も見られ、つまづきを生かす授業づくりまではできていないと考える。	引き続き、国語の授業を展開する中で、児童の多様な考えやつまづきを生かした授業を行う。また全ての児童にきめ細かな指導を行うために、友だちの考えを再話す活動や、話し合いの中に書く活動を取り入れ、「言葉の力」を定着させる。
3 指導に伴ったよい評価を行う (指導・評価のあり方を工夫し、児童の伸びた点や努力した点を認め励ます)	4 3 2 1	授業の中で伸びた点や努力した点を認められ励まされたことがある児童の割合 80%以上 授業の中で伸びた点や努力した点を認められ励まされたことがある児童の割合 70%以上 授業の中で伸びた点や努力した点を認められ励まされたことがある児童の割合 60%以上 授業の中で伸びた点や努力した点を認められ励まされたことがある児童の割合 50%以下	2	3に近い2の評価である。教師のよいところを認めているが64%で、児童も中・高学年は70%台である。	よいことは明確にほめることを意識した指導をする。
4 週2回の国語のパワーアップタイムを充実するとともに、継続して取り組む	4 3 2 1	多くの文章を音読・暗誦したり、多くの漢字を練習したりすることができた児童の割合 80%以上 多くの文章を音読・暗誦したり、多くの漢字を練習したりすることができた児童の割合 70%以上 多くの文章を音読・暗誦したり、多くの漢字を練習したりすることができた児童の割合 60%以上 多くの文章を音読・暗誦したり、多くの漢字を練習したりすることができた児童の割合 50%以下	3	本校作成の児童質問紙調査において「多くの文章を音読・暗誦したり、多くの漢字を練習したりすることができたと感じている児童の割合84.2%だったが、教職員アンケートでは、70%以上達成と答えた割合が60%であったので。	言語技術などの基礎的な知識・技能の確実な習熟と定着を図るためにパワーアップタイムの教材を工夫し、内容充実と児童が意欲的に取り組むことができるように実践を積み重ねる。
5 週3回の朝読書を進んで行う	4 3 2 1	いろいろな本を進んで読んでいるか 達成度 80%以上 いろいろな本を進んで読んでいるか 達成度 70%以上 いろいろな本を進んで読んでいるか 達成度 60%以上 いろいろな本を進んで読んでいるか 達成度 50%以下	3	高学年になるほど進んで読んでいる児童の評価が下がっている。	読み聞かせ、読書の本の選び方の指導などをし、幅広く読書を楽しむようにさせる。
6 「心のノート」・副読本などの活用や、資料の開発・工夫を通して、道徳の授業の充実をはかる(年間1回は必ず参観日で授業を行う)	4 3 2 1	授業の中で自分の行動を見つめ直すことができる児童の割合 90%以上 授業の中で自分の行動を見つめ直すことができる児童の割合 80%以上 授業の中で自分の行動を見つめ直すことができる児童の割合 70%以上 授業の中で自分の行動を見つめ直すことができる児童の割合 60%以下	2	教師の数値が1.2が60%と低い。教師は指導が不十分だと感じているようだ。児童は80%台の数値を示している。児童はおおむねよいと感じている。	参観授業の指導案を提出し、児童や保護者の反応も記録する。各学年実践交流を行い、校内研修を充実する。
7 いつも気持ちのよいあいさつ・返事が交わされる学校にする	4 3 2 1	いつでも誰にでも気持ちのよい挨拶・返事ができているか 達成度 85%以上 いつでも誰にでも気持ちのよい挨拶・返事ができているか 達成度 75%以上 いつでも誰にでも気持ちのよい挨拶・返事ができているか 達成度 70%以上 いつでも誰にでも気持ちのよい挨拶・返事ができているか 達成度 60%以下	3	児童アンケート、保護者アンケートとも平均すると80%以上ができていると答えている。しかし教職員は半数しか70%以上できているととらえていない。	児童会ともタイアップして子どもたちからも進んであいさつができるように、具体的な実践化を図る。
8 教師と児童・児童相互の人間関係を深める。	4 3 2 1	話したいことがあるときは先生や友だちに相談できるか 達成度 80%以上 話したいことがあるときは先生や友だちに相談できるか 達成度 70%以上 話したいことがあるときは先生や友だちに相談できるか 達成度 60%以上 話したいことがあるときは先生や友だちに相談できるか 達成度 50%以下	2	児童アンケートでは、70%以上ができていると答えているが、教職員は60%程度であると答えている。	「いじめのアンケート」をまたとり、児童の実体を把握していく。学校生活において、自己決定、自己肯定感、自己存在感を味わわせるとともに、自己チェックする場を設定する。
9 教育(生活)環境を美しく整えるとともに、進んで清掃活動に取り組む(教室・廊下・階段等の整備や児童の名札・帽子・靴の身なり等)	4 3 2 1	一生懸命に清掃活動に取り組んでいるか 達成度 80%以上 一生懸命に清掃活動に取り組んでいるか 達成度 70%以上 一生懸命に清掃活動に取り組んでいるか 達成度 60%以上 一生懸命に清掃活動に取り組んでいるか 達成度 50%以下	3	児童・教職員とも70%以上できていると答えているものがほとんどである。	月に1回、生徒指導部で点検をして回り、教職員へ結果を報告し、意識化を図る。
10 体力(走る・跳ぶ)の向上を意識した日々の取り組みを行う(準備運動・学年スポーツ集会・外遊びを通して)	4 3 2 1	平均記録が3%以上アップ 平均記録がアップ 平均記録が変わらない 平均記録がダウン		取り組み継続中。2月に2回目のテスト実施予定。	後期も学年スポーツ集会、学級の外遊び等を実施する。体力テストの結果を踏まえ、本校の弱い面については、具体目標の修正や授業、外遊び等に生かしていく。
11 生活習慣調べを行い、家庭と連携しながら基本的な生活習慣を身につけさせる。(特に早寝早起き・朝食や給食の食事等)	4 3 2 1	基本的な生活習慣が身についているか 達成度 80%以上 基本的な生活習慣が身についているか 達成度 70%以上 基本的な生活習慣が身についているか 達成度 60%以上 基本的な生活習慣が身についているか 達成度 50%以下	3	早起きや朝食等は、ほぼよいといえる状況であるが、早寝・歯みがき・排便等の習慣が身につけていない。給食を残す等は、20%～40%いる。	今後も、保健だよりでの学級指導や、身体計測時の指導などを行い、意識を高めるようにしていく。
12 保護者と連携を深めた教育実践を行う。(ホームページの充実やアンケートを通して、保護者・地域・学校の双方向的な関係を高める。)	4 3 2 1	学校のことがよくわかり学校や担任が信頼できるか 満足度 80%以上 学校のことがよくわかり学校や担任が信頼できるか 満足度 70%以上 学校のことがよくわかり学校や担任が信頼できるか 満足度 60%以上 学校のことがよくわかり学校や担任が信頼できるか 満足度 50%以下	4	保護者アンケートの結果、90%以上の人がよくわかると答えている。更新の回数も多く、充実している。	最新の情報を提供するため、ホームページを各学年1回は更新する。また、学校だよりにおいては、児童の活動を中心とした出来事や学校行事等、保護者地域の方々に興味を持って読んでもらえるような紙面作りを行う。